

市川市の現状について

1 自転車利用の現状と交通事故の状況

1) 自転車保有台数の推移

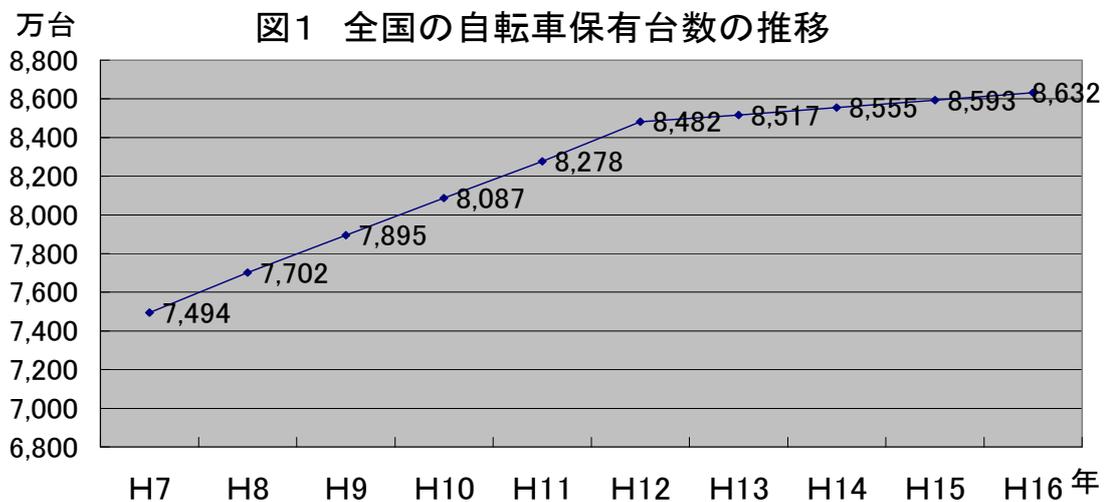
自転車は、買い物や通勤・通学などの日常生活における交通手段として、あるいはレジャーや業務の手段として、多様な用途に利用されています。

また、性能や形状についてもマウンテンバイクやスポーツタイプのものから、ママチャリ、子供用自転車まで幅があり、幼児から高齢者まで幅広い年齢層に利用されています。

図1のとおり自転車の保有台数は年々増加しており、(財)自転車産業振興協会統計によると、全国の自転車保有台数は、平成16年では8,632万台になっています。

平成16年の全国の自動車保有台数が約7,809万台であるので、自転車の保有台数は、自動車の保有台数を上回るほど多いということがわかります。

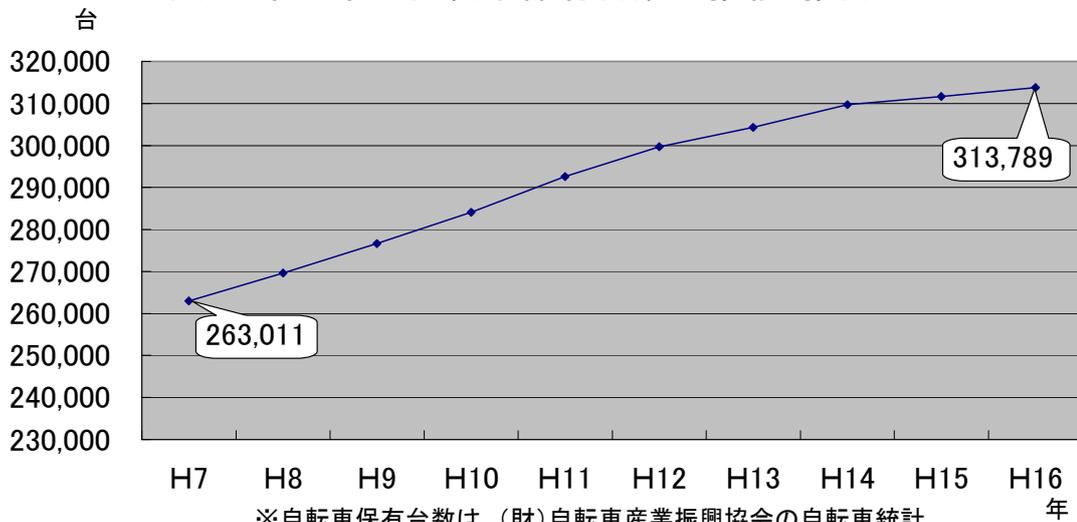
資料：自動車の保有台数は、軽自動車以上で平成16年12月末の国土交通省統計資料による。



資料：自転車保有台数は、(財)自転車産業振興協会の自転車統計要覧による。

また、市川市の自転車保有台数について、全国保有台数を基に人口比で推計したものが図2ですが、全国の保有台数同様、年々増加しており、平成16年では、約31万4千台で、0.68台/人で、たいへん多くの自転車があることがわかります。

図2 市川市の自転車保有台数の推移(推計)



※自転車保有台数は、(財)自転車産業振興協会の自転車統計要覧、総務省統計局の人口の推移、市川市統計年鑑の市の人口の推移により推計した。

2) 交通機関分担率

交通機関には、鉄道、バス、自動車、二輪車、自転車、徒歩などがありますが、その中で、自転車の交通機関分担率を見てみますと、平成12年の全国の自転車の交通機関分担率が15.4%であるのに対し、平成10年の市川市分担率は18.1%ですので、全国と比較して市川市は自転車の交通機関分担率、言い換えますと自転車を利用する割合が高いといえます。

また、表1により近隣市の自転車の交通機関分担率を見てみますと千葉県(11.1%)及び千葉市をはじめ各市(10.6%~14.3%)と比べて、市川市の自転車の交通機関分担率18.1%が最も高く、市川市は自転車を利用する割合が非常に高いことがわかります。

表1 千葉県・近隣市の自転車の交通機関分担率(平成10年)

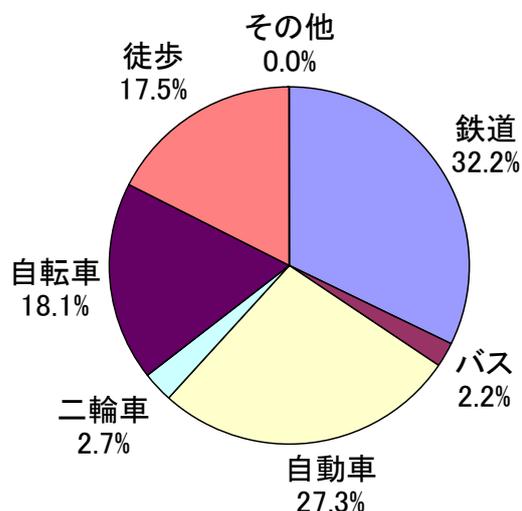
	市川市	千葉市	船橋市	松戸市	柏市	浦安市	習志野市	鎌ヶ谷市	千葉県
分担率%	18.1	10.6	12.9	14.1	12.9	12.7	12.7	14.3	11.1

(全国の自転車交通機関分担率：平成12年都市計画中央情報センターの「全国都市パーソントリップ調査」代表交通手段構成の数値を利用)

(平成10年東京都市圏パーソントリップ調査、目的種別別代表交通手段別OD表を用いて各市の自転車交通分担率を集計)

なお、平成10年の市川市の交通機関分担率は、次のとおりです。

図3 平成10年市川市の交通機関分担率



3) 交通事故の状況

(1) 全交通事故件数の推移

平成16年以降の過去5年間の全交通事故件数の推移は、表2のとおりです。全国、千葉県、市川市とも平成16年以降は、事故件数が減少していることがわかります。

表2 全交通事故件数の推移

年	H16	H17	H18	H19	H20
全国(件)	952,191	933,828	886,864	832,454	766,147
千葉県(件)	38,240	36,694	33,834	31,161	27,586
市川市(件)	2,376	2,293	2,083	1,916	1,533

データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

(2) 自転車事故件数の推移

平成16年以降の過去5年間の自転車に関する交通事故の件数は、表3のとおりです。全交通事故同様、自転車の事故件数についても平成16年以降は事故件数が減少しております。

表3 自転車事故件数の推移

年	H16	H17	H18	H19	H20
全国(件)	187,980	183,653	174,262	171,018	162,525
千葉県(件)	8,897	8,596	7,874	7,788	7,137
市川市(件)	821	802	756	737	607

データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

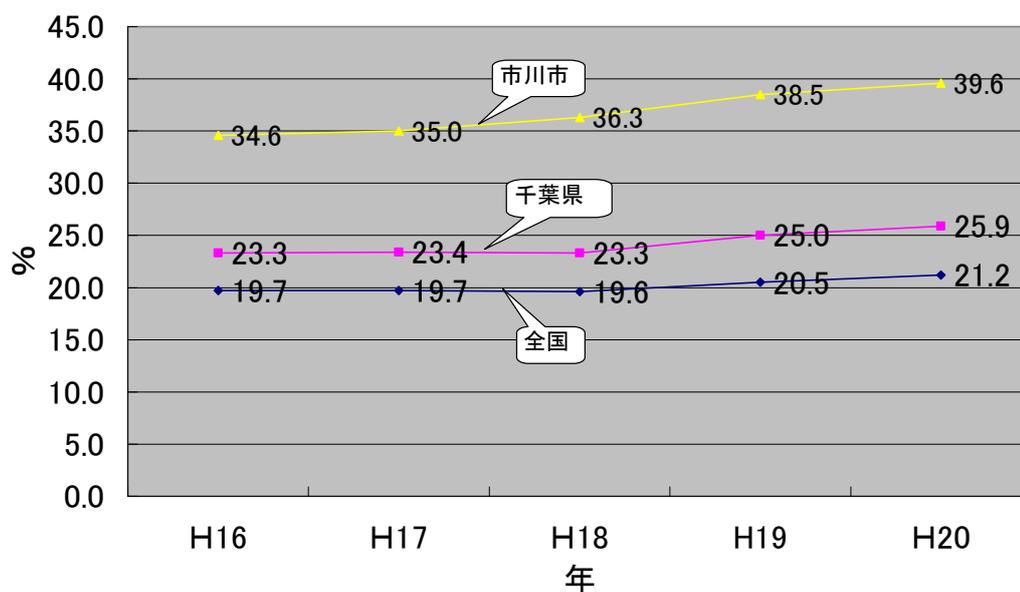
(3) 交通事故件数に占める自転車事故件数の構成率の推移

全交通事故件数に占める自転車事故件数の割合については、図4のとおり全国、千葉県、市川市とも平成16年以降、概ね増加する傾向にあります。平成16年以降、全交通事故、自転車事故が、全国、千葉県、市川市とも毎年減少していることと合わせると、自転車の交通事故は、自動車、二輪車等の交通機関の事故に比べ平成16年以降、事故件数が減少する割合が低いということが出来ます。

また、千葉県は、全国に比べ交通事故全体の中で自転車の事故が多いということが言えますし、市川市は全国や千葉県と比べ、交通事故全体の中で、特に自転車に関係する事故が多いということになります。

平成20年で比較しますと全国の全交通事故件数に占める自転車事故件数を1とした時に、千葉県は、約1.2倍、市川市は何と約1.9倍も自転車の事故が多いということが出来ます。

図4 全事故件数に占める自転車事故件数の構成率の推移



データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

(4) 自転車乗車中の死傷者数の推移

自転車乗車中の死傷者数は、表4のとおり平成16年以降、全国、千葉県、市川市とも減少しています。

表4 自転車乗車中の死傷者数の推移

年	H16	H17	H18	H19	H20
全国 死傷者数(人)	190,251	185,532	175,453	171,923	162,967
千葉県 死傷者数(人)	9,052	8,706	7,927	7,840	7,153
市川市 死傷者数(人)	828	815	763	746	614

資料：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書より

(5) 自転車事故の原因別発生状況

図5のとおり、千葉県では、自転車事故の原因で1番多いのが安全不確認で44.5%、2番目が動静不注視10.4%、3番目が交差点安全進行義務9.9%、4番目がハンドル操作不適6.1%、5番目が予測不適4.8%となっています。

図6のとおり、市川市では、自転車事故の原因で1番多いのが千葉県と同じ安全不確認で39.2%、2番目も千葉県と同じで動静不注視が16.4%、3番目がハンドル操作不適で10.6%、4番目が徐行で6.7%、5番目が一時不停止で5.3%となっております。

したがって、千葉県、市川市とも安全不確認や動静不注視、ハンドル操作不適が自転車の事故原因として多いのが特徴となっています。

なお、動静不注視とは、相手の存在を確認していたが、危険はないと判断し、その動静の注視を怠ったことを言います。

図5 平成20年千葉県の自転車事故の原因別発生状況

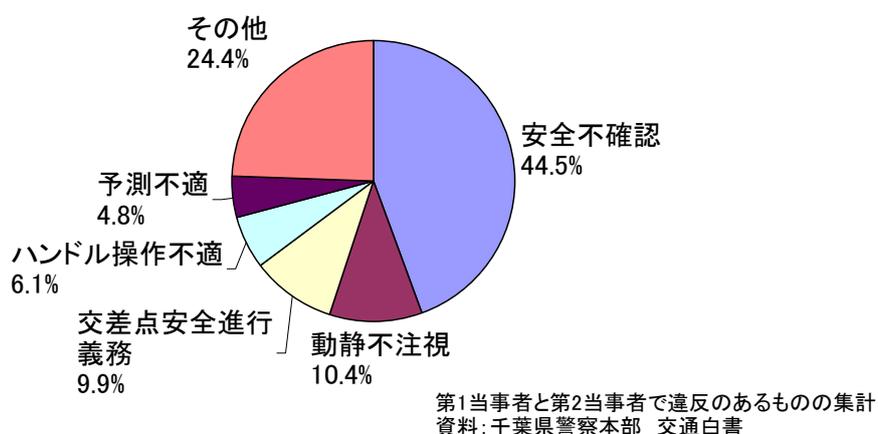
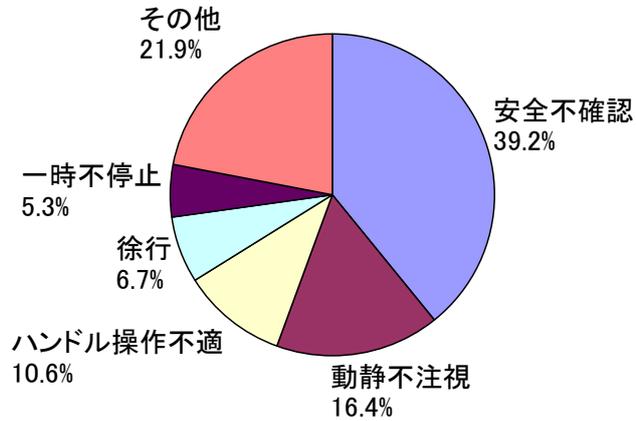


図6 平成20年市川市の自転車事故原因別発生状況



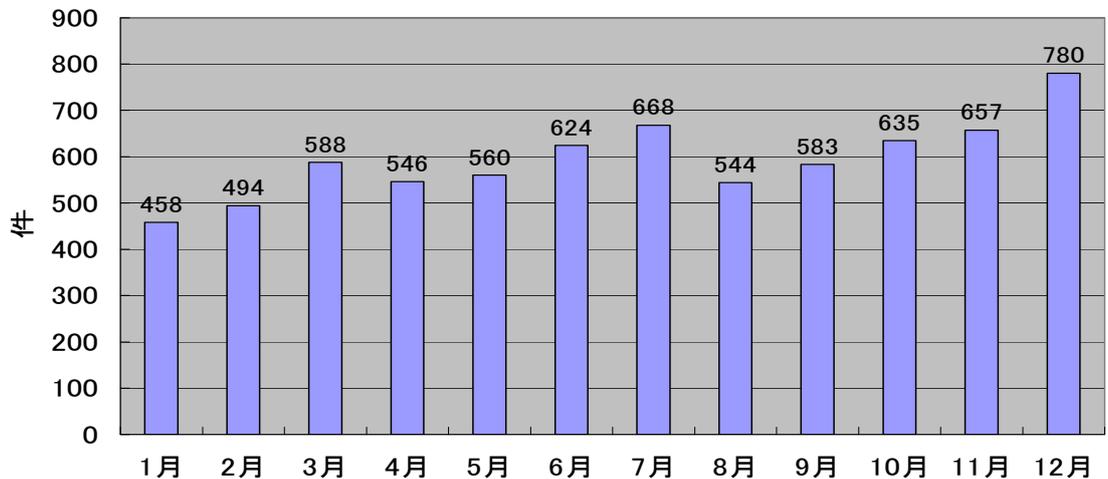
第1当事者と第2当事者で違反があるものの集計
資料:千葉県警察本部 交通白書

(6) 自転車事故の月別発生状況

図7のとおり、平成20年中の千葉県内の自転車の月別事故件数は、12月が最も多く780件で(10.9%)、2番目が7月の668件(9.4%)、3番目が11月の657件(9.2%)、4番目が10月の635件(8.9%)、5番目が6月の624件(8.7%)となっています。

逆に少ない順に1番目が1月の458件(6.4%)、2番目が2月の494件(6.9%)となっています。

図7 平成20年 千葉県内の自転車事故月別発生件数



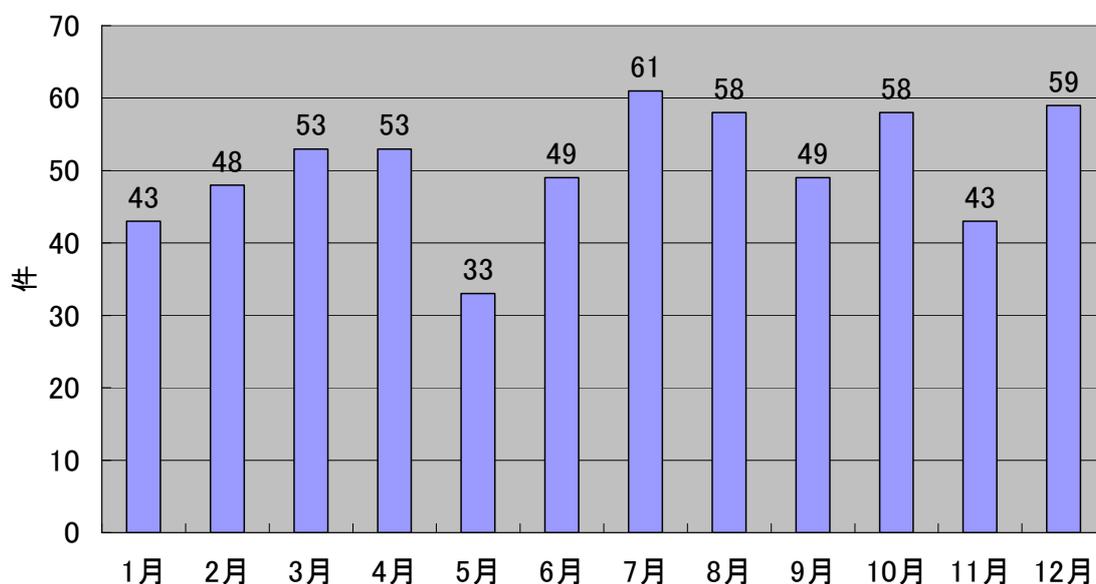
データ：千葉県警察本部発行の交通白書

図8のとおり、平成20年中の市川市内の自転車事故の月別事故件数は、7月が最も多く61件で（10.0%）、2番目が12月の59件（9.7%）、3番目が8月、10月の58件（9.6%）、5番目が3月、4月の53件（8.7%）となっています。

逆に少ない順に1番目が5月の33件（5.4%）、2番目が1月、11月の43件（7.1%）となっています。

千葉県及び市川市に共通なのは、7月と12月に自転車の事故が多く発生しており、逆に1月に事故が少ない状況であるということです。

図8 平成20年市川市内の自転車事故月別発生件数



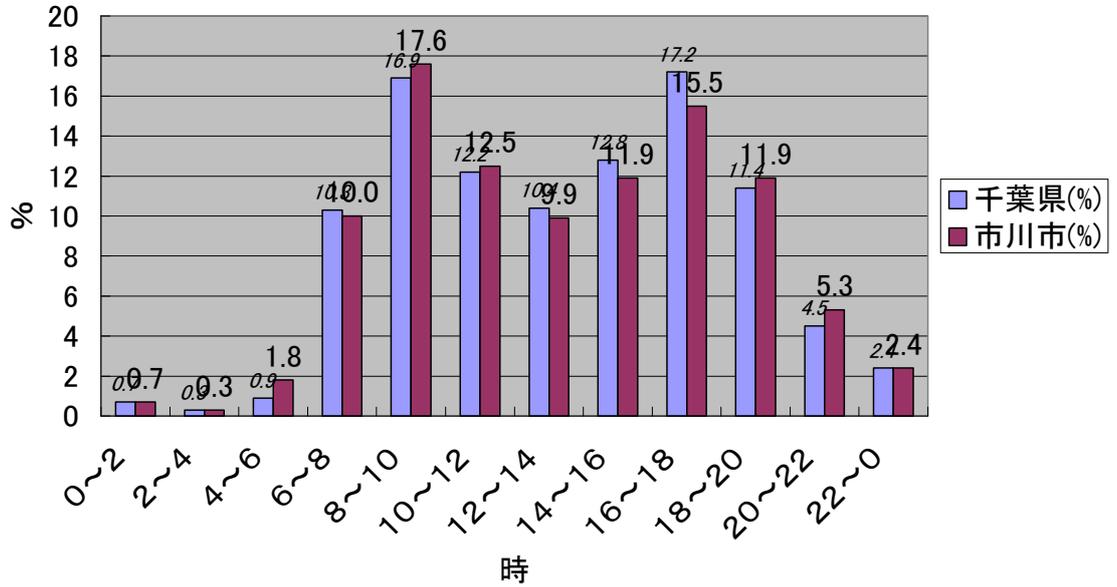
データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(7) 自転車事故の時間別発生状況

図9のとおり、平成20年の自転車の事故は、千葉県、市川市とも8時～10時までと16時～18時の通勤、通学時間帯に多く発生しています。

千葉県と市川市の違いは、千葉県は、16時～18時の夕方に一番多く自転車の事故が発生しているのに対し、市川市は8時～10時の早朝に一番多く発生しています。

図9 平成20年自転車事故の時間別発生状況

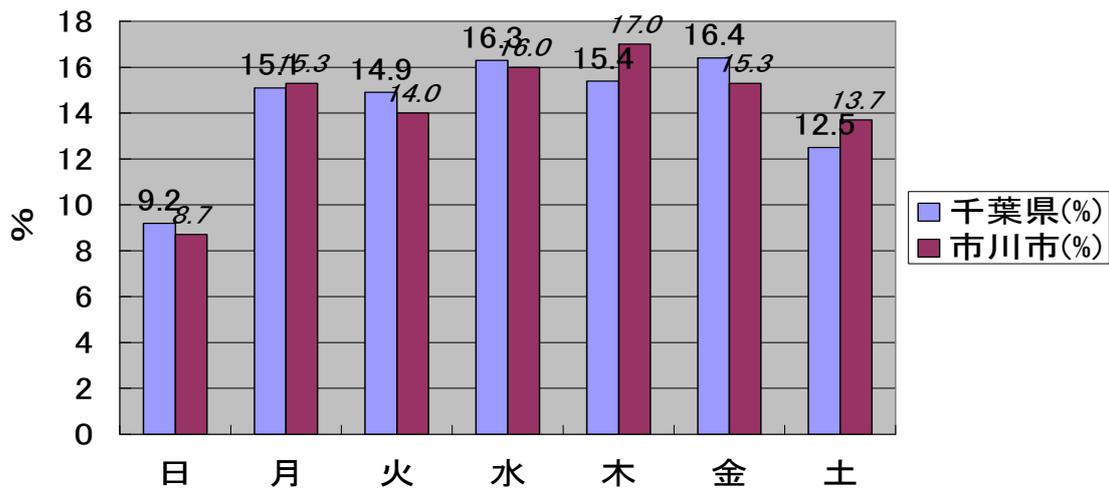


データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(8) 自転車事故の曜日別発生状況

図10のとおり、平成20年の自転車事故は千葉県、市川市とも通勤、通学の多い月曜日から金曜日に事故が多発しており、日曜日は最も自転車の事故が少なくなっています。

図10 平成20年自転車事故の曜日別発生状況

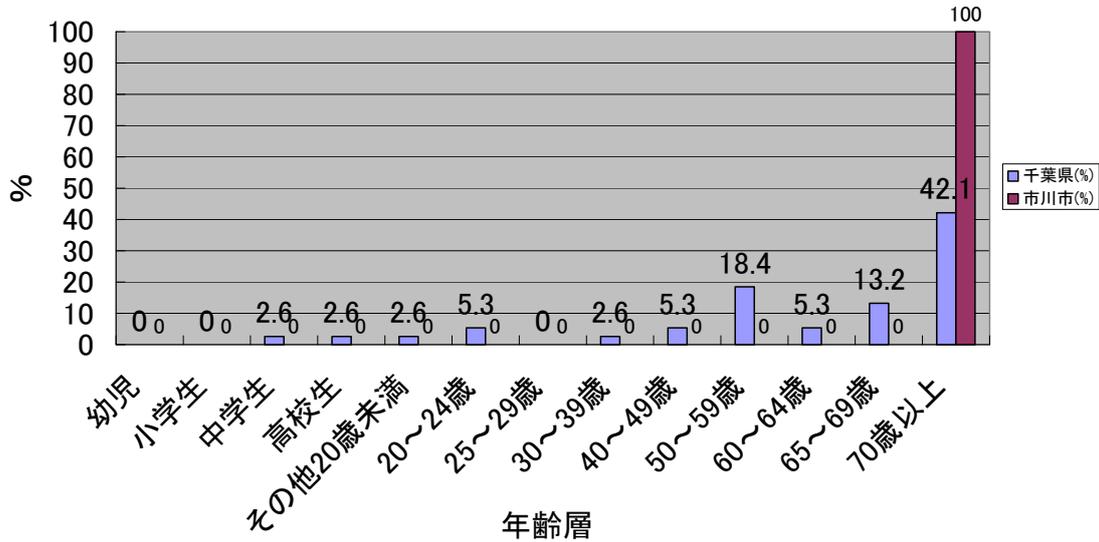


データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(9) 自転車事故の年齢層別死者数

図11のとおり、平成20年の自転車事故では、千葉県及び市川市(死者1名)とも、70歳以上の高齢者の死者数が多くなっています。

図11 平成20年自転車事故の年齢層別死者数の構成率



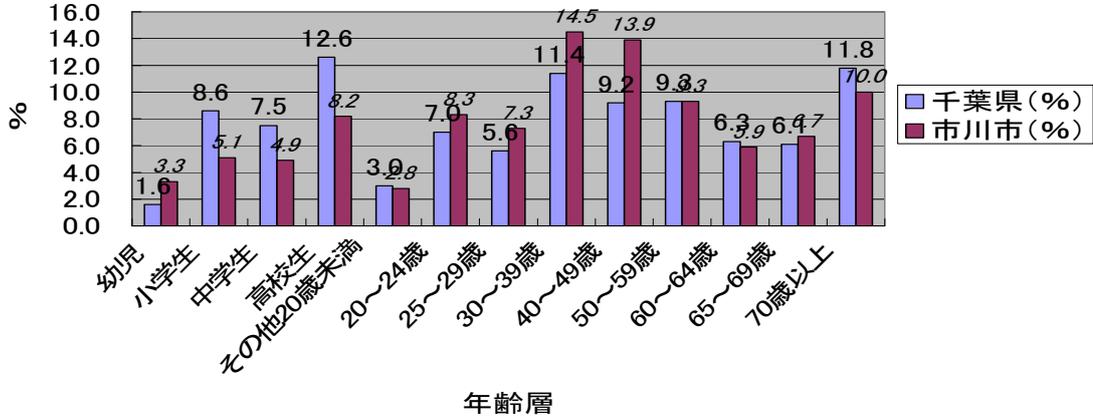
データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(10) 自転車事故の年齢層別負傷者数

図12のとおり、平成20年の自転車事故による負傷者数は千葉県では、高校生が通学等で自転車を利用するためか1番多く12.6%、2番目が70歳以上で11.8%、3番目が30～39歳の11.4%となっています。

市川市では、30～39歳が1番多く14.5%、2番目が40～49歳で13.9%、3番目が70歳以上で10.0%となっています。

図12 平成20年自転車事故の年齢層別負傷者数の構成率



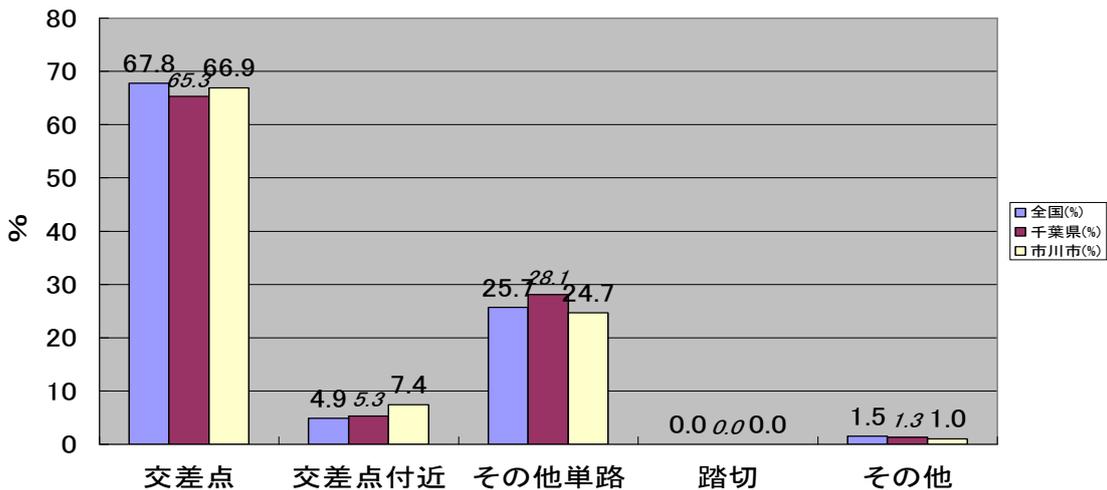
データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(11) 自転車事故道路形状別発生状況

図13のとおり、自転車事故は、全国、千葉県、市川市とも交差点及び交差点付近で約7割発生しており、残りは、その他の単路でほとんど発生しています。

なお、ここで単路とは、道路のうち交差点及び踏切等を除いた部分を指し、交差点付近とは、交差点側端から30m以内の場所を言います。

図13 平成20年自転車事故の道路形状別発生状況



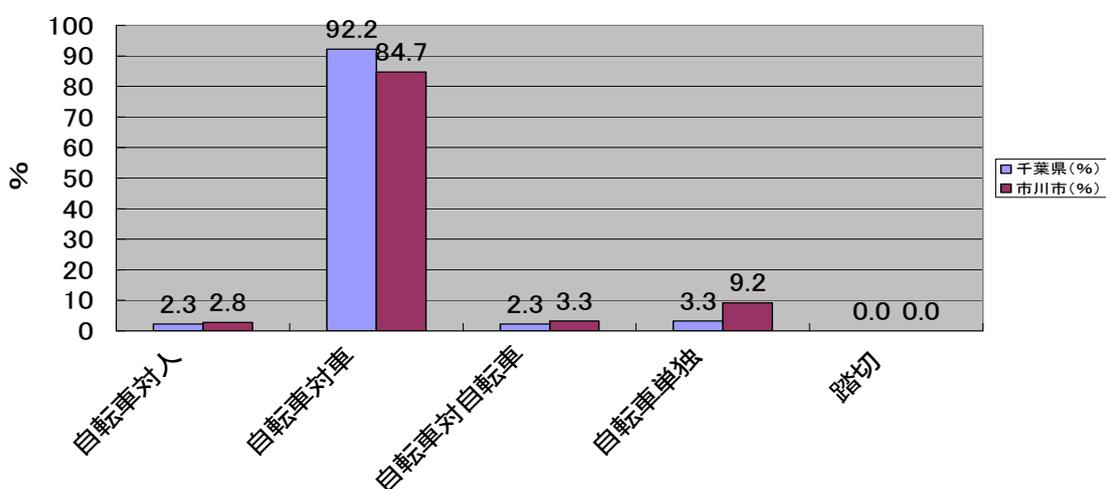
データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

(12) 自転車事故の事故類型別発生状況

図14のとおり、平成20年の自転車事故の事故類型で、1番多いのは千葉県、市川市とも自転車対車で全体の8割から9割を占め、2番目が自転車単独事故、3番目が自転車対人の事故となっています。

千葉県と市川市を比較しますと、千葉県全体では自転車対車の事故が市川市よりも多く全体の92.2%を占めており、市川市の84.7%より7.5%も多くなっています。また、自転車単独の事故が千葉県が3.3%のところ市川市は、9.2%で市川市の方が5.9%も多くなっています。

図14 平成20年自転車事故の事故類型別発生状況



データ：千葉県警察本部発行の交通白書

(13) 人口1万人当たりの全交通事故件数

表5のとおり、平成20年の人口1万人当たりの全交通事故件数は、全国が60.3件、千葉県が45.3件のところ、市川市は33.5件ですので、市川市は人口の割に全交通事故の件数が少ないことがわかります。

また、近隣市と比べても1番、人口1万人当たりの全交通事故件数が少ないことがわかります。

表5 平成20年の人口1万人当たりの全交通事故件数

	人口（人）	全交通事故件数	人口1万人当たりの全事故件数
市川市	457,564	1,533	33.5
千葉市	917,854	4,363	47.5
船橋市	584,152	2,378	40.7
松戸市	473,727	1,805	38.1
柏市	385,823	1,701	44.1
浦安市	156,532	553	35.3
習志野市	157,893	583	36.9
鎌ヶ谷市	105,334	440	41.8
千葉県	6,090,799	27,586	45.3
全国	127,066,178	766,147	60.3

事故データ：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

人口：総務省 住民基本台帳 平成20年3月31日現在

(14) 人口1万人当たりの自転車事故件数

表6のとおり、人口1万人当たりの自転車の事故件数は、全国が12.8件で、千葉県が11.7件のところ、市川市は13.3件ですので、市川市は全国平均や千葉県平均と比べて、自転車の事故が多いことがわかります。

また、近隣市と比べても鎌ヶ谷市14.7件、柏市13.7件に次いで自転車の事故件数が高いことがわかります。

全国の人口1万人当たりの自転車事故件数と比べると市川市は約4%自転車事故件数が多いと言えますし、同様に千葉県と比べると約14%も多いと言えます。

表6 平成20年の人口1万人当たりの自転車事故件数

	人口(人)	自転車事故件数	人口1万人当たりの自転車事故件数
市川市	457,564	607	13.3
千葉市	917,854	1,188	12.9
船橋市	584,152	731	12.5
松戸市	473,727	602	12.7
柏市	385,823	527	13.7
浦安市	156,532	194	12.4
習志野市	157,893	193	12.2
鎌ヶ谷市	105,334	155	14.7
千葉県	6,090,799	7,137	11.7
全国	127,066,178	162,525	12.8

自転車事故：警察庁ホームページ、千葉県警察本部発行の交通白書

人口：総務省 住民基本台帳 平成20年3月31日現在

(15) まとめ

市川市は、全国や千葉県、千葉市など近隣市と比べて、自転車の交通機関分担率が高く、通勤・通学や買い物、業務、サイクリングなどの利用を含めた自転車の利用がとて多い都市です。

また、市川市は全国や千葉県、近隣市と比べ、人口1万人当たりの自転車の事故件数が多いというのが現状です。

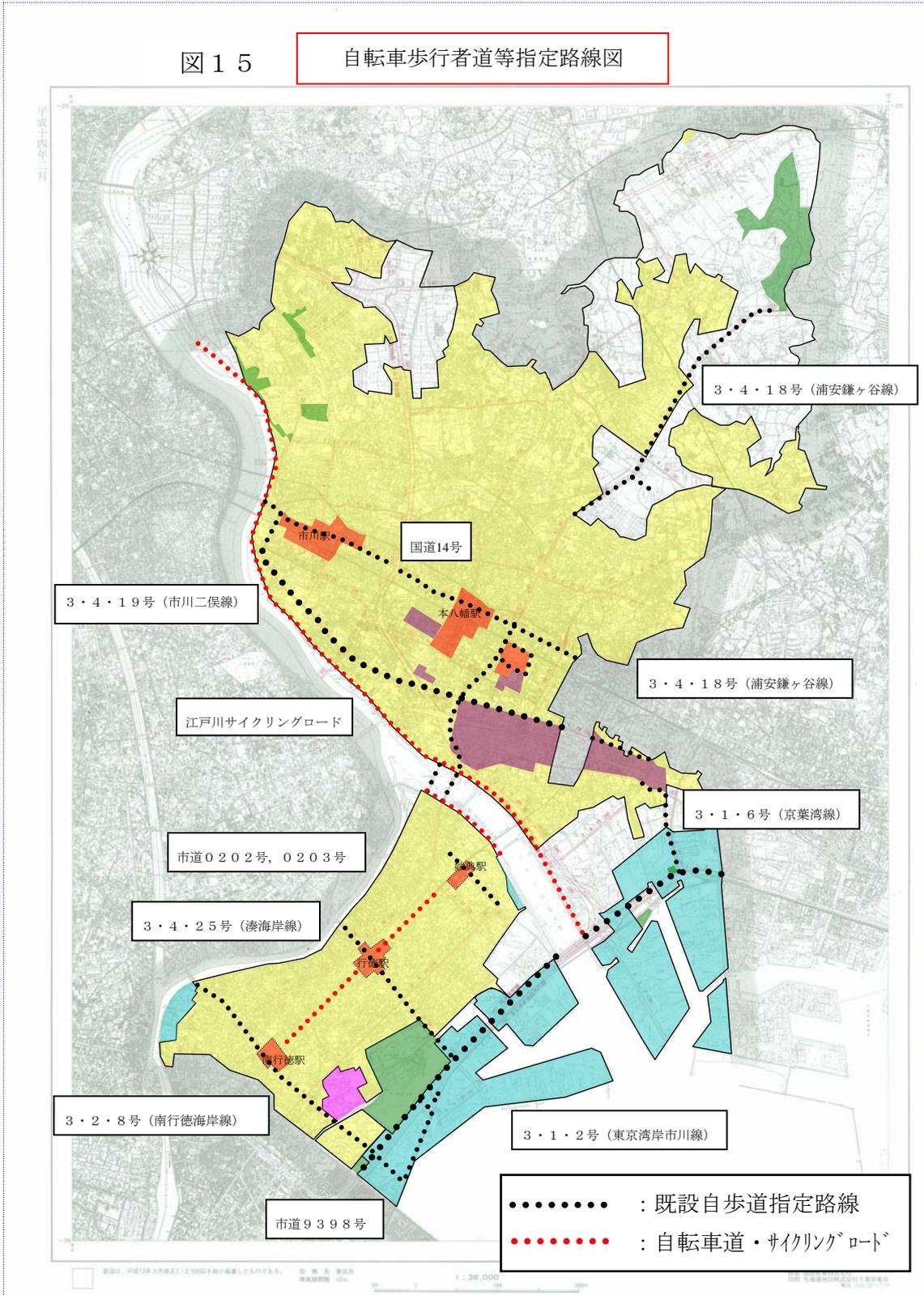
2 自転車走行環境、駐輪場の状況

1) 自転車走行環境の現状

市川市内の自転車歩行者道指定路線等は、次のとおりです。

図 1 5

自転車歩行者道等指定路線図



2) 駐輪場の整備状況

市内の駐輪場の整備状況については以下のとおりです。

表7 自転車等駐車場整備状況

①有料施設 9 駅 29 施設

場所	施設数	延床面積 m ²	整備台 数
市川駅	5	7,040.57	5,240
八幡3駅	11	10,619.41	7,780
下総中山駅	1	1,620.00	1,400
市川大野駅	5	2,592.87	2,230
行徳駅	2	5,572.00	5,180
南行徳駅	3	1,934.69	1,490
妙典駅	2	2,500.00	2,533
合計	29	31,879.54	25,853

②無料施設 10 駅 3 バス停 19 施設

場所	施設 数	延床面積m ²	整備台数
市川駅	2	3,715.00	2,450
八幡駅	2	3,781.70	3,130
原木中山駅	1	1,419.42	880
行徳駅	2	1,368.58	1,200
南行徳駅	2	1,956.60	1,680
二俣新町駅	2	1,022.00	1,020
市川塩浜駅	2	1,539.00	1,530
国府台駅	2	406.73	350
北国分駅	1	807.00	500
国分高校ハ ス停	1	153.35	80
国分ハス停	1	255.21	170
一本松ハス 停	1	38.95	30
合計	19	16,463.54	13,020

③無料自転車置場

場所	施設数	延床 面積m ²	整備台数
市川真間駅	1	210	210
国分高校 バス停脇	1	49	60

※八幡3駅とは、JR 本八幡駅、都営新宿線八幡駅、京成八幡駅、の3駅を表す。

表 8 歩道等を利用した自転車置場設置状況

[総武線市川駅]

設置場所	設置台数	形態	料金	備考
第1自転車置場	140台	平置き	無料	ダイエー横 アイアイロード内
第2自転車置場	97台	平置き	無料	市川グランドホテル横 アイアイロード内
計	237台			

[東西線南行徳駅]

設置場所	設置台数	形態	料金	備考
第1自転車置場	63台	機械ラック式	2時間無料 その後8時間毎に 100円	ロータリー
第2自転車置場	117台	〃	〃	行徳駅寄り高架脇
第3自転車置場	42台	〃	〃	市民センター前
第4自転車置場	45台	〃	〃	今井橋通り側
第5自転車置場	450台	平置き	無料	第3駐輪場脇
計	717台			

(機械式設置台数計：267台)

表 7, 8 の主要駅 合計台数

JR 市川駅…7,927 台

八幡 3 駅周辺…10,910 台

東西線行徳駅…6,380 台

東西線南行徳駅…3,887 台

3) 放置自転車の現状

表9は平成16年度以降の放置自転車と処分の状況です。

平成16年度以降、一日当たりの放置台数は、毎年減少しております。また、放置自転車の引き取り率は、平成16年度以降、概ね減少する傾向にあります。

表9 放置禁止区域の指定のある駅周辺の放置自転車と処分の状況

年度	一日あたりの放置台数	撤去台数	引渡台数	引取率%	破砕台数	売却台数	リサイクル台数
16	5,125	21,690	7,315	33.7	21,166		1,102
17	4,215	18,032	5,200	28.8	12,994		1,184
18	3,996	14,824	3,853	26.0		14,994	682
19	3,551	13,751	3,699	26.9		14,453	560
20	2,657	11,824	2,509	21.2		11,373	388

※数字は、市川、八幡、市川大野、妙典、行徳、南行徳の各駅の合計。

※「一日あたりの放置台数」は、各年度11月の晴天の平日午前11時に計測。

※破砕及び売却台数は、放置禁止区域外で撤去した自転車を含む。

3 自転車の安全対策の現状

1) 自転車の安全教育に係る現状

市では、市内の小学生やA高校の生徒に対して、交通安全思想の普及のための講習会を毎年行っています。小学3年生もしくは4年生、及び高校生に対しては自転車に関する交通安全指導を実施しています。

平成20年度中の自転車に関する指導の実績

- ・小学生(3年生または4年生)
40校 3,910人
- ・高校生(A高校1校のみ)
772人

2) 自転車の安全利用啓発の現状

(1) 広報及び自治会回覧による周知

平成20年6月1日から改正道路交通法が施行されたことに伴い、自転車の通行ルールが変更されましたので、市では広報や自治会回覧で、市民の皆様にごその内容をお知らせし、交通ルールの普及に努めています。

※参照

(2) 交通安全運動期間中の啓発

市では、平成20年7月20日(日)～7月31日(木)までの夏の交通安全運動期間中及び9月21日(日)～9月30日(火)までの秋の全国交通安全運動期間中並びに12月10日(水)～12月31日(水)までの冬の交通安全運動期間中に市川・行徳警察署や交通安全協会等の交通安全団体と協働で、自転車の交通事故が比較的多い主要四駅周辺(JR総武線市川駅、本八幡駅、東京メトロ東西線の行徳駅、南行徳駅)で自転車安全利用キャンペーンを行い、交通ルールのちらしを配布したり、交通ルールを呼びかけること等により啓発を行いました。

(3) 毎月の啓発活動

毎月15日は「自転車安全の日」と定められており、その毎月15日前後に、市では警察署や安全協会、交通安全母の会等の交通安全団体と協働で駅周辺等で反射材などの啓発物資を配布しながら、自転車安全利用キャンペーンを実施しています。

3) 自転車の交通ルールの基本

自転車安全利用五則(平成19年7月10日中央交通安全対策会議交通対策本部決定)

(1) 自転車は車道が原則、歩道は例外

(2) 車道は左側を通行

(3) 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

(4) 安全ルールを守る

- ・ 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
- ・ 夜間はライトを点灯
- ・ 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認

(5) 子どもはヘルメットを着用

4) 平成20年6月1日改正道路交通法施行(自転車の通行ルールの変更)

(1) 歩道通行要件の明確化

自転車が歩道通行できるのは

- ①「歩道通行可」の標識等がある場合
- ②次の方が運転する場合
 - ・ 児童(6歳以上13歳未満)や幼児(6歳未満)
 - ・ 70歳以上の高齢者
 - ・ 内閣府令で定める障害(視覚・聴覚等の障害、音声・言語等の機能障害、肢体不自由など)のある身体障害者
- ③車道又は交通の状況に照らして、やむを得ないと認められる場合
 - ・ 道路工事や連続した駐車車両などのため車道の左側端の通行が困難

- ・自動車等の交通量が著しく多く、道路幅が狭いなどのため、自動車等との接触の危険がある・・・等

(しかし、自転車は車の仲間なので、歩道は歩行者優先で通行しなければなりません。)

(2) 歩行者用信号機のある横断歩道通行

自転車は、歩行者用信号機のある横断歩道を通行できます。

(ただし、横断歩道では、歩行者の通行を妨げる恐れのあるときは、自転車を押して渡りましょう。)

(3) 子どもの乗車用ヘルメット着用

13歳未満の子どもを自転車に乗車させるときは、保護者はヘルメットを着用させるよう努めなければなりません。

5) 放置自転車対策

市川市では、放置自転車対策として、リサイクル自転車を無料で貸し出すレンタサイクルを行っています。「通勤通学者用レンタサイクル」は登録制であり、利用者は申請・登録を経た方に限られます。

正利用とは自宅から駐輪場までの道程を想定したもので、逆利用とは駐輪場から通勤・通学先までの道程を想定したものです。正利用で用いた自転車を逆利用の方が利用することで、1台の自転車を2人で使うことができます。

一方の「街かど回遊レンタサイクル」は主要駅にて行っているものであり、利用者が限定されていないものです。こちらは1日だけの貸出で、登録制ではありません。

(1) 通勤通学者用レンタサイクル (コンピュータ管理の社会実験)

年度	駐輪場	設置台数	正利用	逆利用	利用件数	一日平均
20	市川第7	100	59	82	33,517	91
	国府台	25	7	22	4,369	11

※平成19年2月1日開始。

(2) 街かど回遊レンタサイクル

年度	設置台数	利用台数	年間利用日数	利用日数1日あたり
20	80台	15,775台	360日	44台

※平成18年11月3日開始。